

BL32B2

蛋白質構造解析コンソーシアム(創薬産業)

1. はじめに

創薬産業ビームライン BL32B2（以下、創薬産業 BL）建設は、日本製薬工業協会（以下、製薬協）の研究開発委員会および蛋白質構造解析コンソーシアム（以下、蛋白コンソ）準備会等によって推進され、その専用施設設置計画が2002年2月末にJASRI諮問委員会で承認された。2001年度は、蛋白コンソ内（製薬協・加盟22社）の組織化、運用体制の構築、および創薬産業BLの建設が主たる活動であった。

2. 報告事項（2001年4月～2002年3月）：蛋白コンソ運営開始～創薬産業BL建設終了まで（各ワーキンググループの活動報告詳細は省略）

2.1 2001年4月～6月 蛋白コンソ内組織化、運用体制構築等

- (1) 4月に22社参加の蛋白コンソ設立準備総会を開催し、蛋白コンソ内の組織化（総会、幹事会、事務局、ワーキンググループ（建設、利用、法務）等）、協定書・運営規則等を審議した。なお、ワーキンググループメンバーとして1名以上登録を参加22社の義務とした。
- (2) 6月に第1回 蛋白コンソ総会を開催し、代表-奥田秀毅（塩野義製薬取締役）、副代表-小雀浩司（持田製薬常務取締役）、副代表-三輪英之（大塚製薬取締役）、幹事長-西島和三（持田製薬）、副幹事長-渡辺耕三（大塚製薬）を決定した（以上任期2年）。協定書・運営規則等が承認された。

2.2 2001年7月～9月 蛋白コンソ事務局開設、創薬産業BL建設開始、海外調査等

- (1) 7月にSPring-8内に蛋白コンソ事務局を開設（Tel：0791-58-1882，Fax：0791-58-1883）し、事務局長-小椋康博および事務局アシスタント1名を常駐した。また、JASRIと設置契約締結後に、建設を開始している理研構造ゲノムBL（BL26）と同一の仕様で建設を7月に開始した。
- (2) 9月にビームライン責任者-勝矢良雄およびビームラインスタッフ2名を常駐することを決定した。また、放射光利用状況および創薬プロテオミクス進捗状況等の調査を目的として、欧州5カ国（ESRFを含む）合同調査（蛋白コンソ・製薬協-研究開発委員会・宇宙開発事業団）を9月中旬に実施し、関係機関に報告書（製薬協-内部資料）を配布した。

2.3 2001年9月～12月 教育訓練等

- (1) JASRI主催のタンパク質構造解析の初級者向け教育訓

- 練に蛋白コンソの6社研究者が参加した（9月～12月）。
- (2) 9月にビームタイム予約システム開発、ホームページ開設を主目的として広報ワーキンググループを発足した。
- (3) 11月に第2回定例総会を開催した。
- (4) 12月初旬、タンパク質構造解析に関する連携方策をNASDAと協議した。また、放射線利用振興協会主催のシンポジウム（12月初旬）で創薬産業BLを報告し、以後、先進小型加速器利用ニーズ検討委員会に関与した（1月～3月）。さらに、尾身大臣のSPring-8視察（12月）に蛋白コンソ関係者が同行した。

2.4 2002年1月～3月 ホームページ一般公開、建設終了等

- (1) 2月に会員専用の情報を除いて、ホームページを一般に公開した。
- (2) 3月末に創薬産業ビームライン建設が終了した〔図1〕。



図1

3. 2002年4月以降の計画

5月：創薬産業BLの建設完了

第3回定例総会の開催、総会記念講演会の開催、完成披露宴の実施

6月～8月：機器類の調整期間、参加会社研究員の研修

8月：国際結晶学会（ジュネーブ）で創薬産業BL概要を報告

9月～参加22社の本格的な測定開始

蛋白質構造解析コンソーシアム 西島 和三